



猪野謙二教授著作年表

(Citation)

国文神戸, 3:112-130

(Issue Date)

1979-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100481962>



猪野謙二教授著作年表

凡 例

- ▽発表された全著作（講演・座談等を含む）収録を意図した。未公刊、初出日付・題名等未確認のものは「補遺・未確認」欄に纏めた。
- ▽初出文掲載紙誌の発行日付順に配列。同月内の配列も発行日付順とした。最上段の太字数字は月刊雑誌の場合（何）月号を表わし、新聞、週刊誌等の日付は「/」中に記した。⊕は大阪版のみ所載。
- ▽上より発行月、題名、野線下に初出文掲載紙誌、発行所、再録書略号（最下段太字）の順に記した。初出文掲載紙誌名が欄に収まらぬ時は題名欄に上げて「」で括った。
- ▽右より初出題名、再録題名、^{再録}、編者註の順に配列。初出文の副題は小活字とし、再録題は一段下げて全体を小活字とした。
- ▽著書以外への再録は二段下げて^{再録}で示し、小活字とした。
- ▽座談会は圈で示した。また出席者名は（出）で示し、小活字とした。
- ▽編者註は「」で括り小活字とした。初出、再録題の脚註か後註の形を原則としたが、事典執筆項目等については註を先行させた。
- ▽題名中の作品名は「」で表示。掲載紙誌欄では単行本、講座類に「」を用い、雑誌、新聞等では省いたが、発行所名との誤認を恐れて付した場合もある。（例「近代文学館」は会報の意）
- ▽作家名以外は新字体を採用。（作家名も字体未詳のものは新字）
- ▽初出題と再録題の差異が僅少の時は再録題を採用した。著書に再録された新聞、週刊誌の初出題、副題は採らなかつた。
- ▽編者が初出紙誌を確認出来なかつたものは初出題の上に▲を表示
- ▽本年表作成にあたっては、猪野先生からの資料ご提供、林原純生氏の協力等を得て、調査・整理・浄書など藤原將博が担当。

▽次に再録書略号を主要著書・編著書一覧を兼ねて列記する。

- 略号〔略号は書名傍点部の発音を採りローマ字表記〕
- S₁ 「近代文学の指標」〔丹波書林 昭23・11・30〕
- 「近代日本の文学」〔福村出版 昭26・4〕
- K₁ 「近代日本文学史研究」〔未來社 昭29・1・25〕
- T₁ 「島崎藤村」〔要書房 昭29・12・5〕
- G 「國民の文学・近代編」〔御茶の水書房 昭30・5・20〕〔永積安明と共編著〕
- S₂ 「近代文学の指標」〔御茶の水書房 昭31・6・5〕〔S₁の増補改訂版〕
- Z₁ 「日本文学の近代と現代」〔未來社 昭33・11・15〕
- 「座談会明治文学史」〔岩波書店 昭36・6・9〕
- M 「柳田泉・勝本清一郎と共編著、『毎日出版文化賞』受賞
- T₂ 「島崎藤村」〔有信堂 昭38・9・1〕〔T₁の増補改訂版〕
- K₂ 「増補近代日本文学史研究」〔未來社 昭39・12・25〕〔K₁の増補改訂版〕
- Z₂ 「座談会大正文学史」〔岩波書店 昭40・4・20〕
- 「柳田泉・勝本清一郎と共編著」
- M 「明治の作家」〔岩波書店 昭41・11・30〕
- 「文学概論」〔有信堂 昭44・1・20〕〔編集ならびに執筆〕
- EI 「明治文学全集55夏目漱石集」〔筑摩書房 昭46・6・30〕〔編集・解題担当〕
- EII 「日本文学の遠近Ⅰ」〔未來社 昭52・7・15〕
- EI 「日本文学の遠近Ⅱ」〔未來社 昭52・9・5〕
- 「岩波講座「文学」全8巻（昭28・11）昭29・6）〔編集委員を務める〕
- 「岩波講座「文学の創造と鑑賞」全5巻（昭29・11）昭30・3）〔同〕
- 「岩波講座「文学」全12巻（昭50・12）昭51・12）〔同〕

10 文学に於ける思想と肉体・荒正人を中心に

文学における思想と肉体・世代論への一發言

12 戦後の近代文学研究

戦後の近代文学研究・展望と批判

戦後の近代日本文学研究・平野謙「島崎藤村」その他

藤村文学研究の一課題・平野謙「島崎藤村」

後記にかえて・戦後の近代文学研究

平野謙氏の「島崎藤村」について

〔再〕初出文が「昭和批評大系3」（番町書房 昭43）

〔戦後の近代文学研究〕初出文とS₁文は同一。

S₂文はS₁文の後半を省略。K₁K₂文ではS₁文の紙

面で冒頭約四頁半が削られている。T₁T₂は初出

文の平野謙の項を抜萃したもの〕

昭和23年（一九四八）

1 二葉亭の道

〔現代人〕所収の「二葉亭の道」〔愚痴の文学

〕「徳田秋聲」は「明治・大正・昭和・作家研究」

の総題のもとに連載された。「岩野泡鳴」につ

いては未見〕

2 「文明」の二年

愚痴の文学・花袋について

田山花袋・愚直と情痴の文学

3 徳田秋聲

徳田秋聲・庶民的リアリストの道

徳田秋聲・芸術と女性とによる抵抗

夏目漱石・「行人」について〔8日NHK

虚無よりの創造・「明暗」に於ける漱石

「明暗」における漱石

夏目漱石「明暗」論

花・新生社

文学 S₁ S₂

K₁ K₂ S₁

T₁

T₂ S₂

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

現代人

文学

4 「明暗」における漱石・虚無よりの創造

永積安明著「日本文学評論」

5 ▲岩野泡鳴

岩野泡鳴「新自然主義」の意義

11 政治小説変遷史

政治・社会小説の流れ1「経国美談」

〔政治小説変遷史〕の総題で計四回。「序章近

代日本の政治と文学」（昭23・11）、「政治小説

と民権運動」（昭23・12）、「経国美談」の階級

的性格」（昭24・1）、「社会小説の源流」（昭24

・5）と各々表題されている

服部之総著「蓮如第一部」親鸞ノート

樋口一葉「文学界」ロマンチストと一葉

「近代文学の指標」丹波書林刊

12 漱石における自我の自覚と崩壊・心にして

夏目漱石「心」における自我の問題

昭和24年（一九四九）

7 透谷から藤村へ・文学史的素描

日本近代文学の主体・透谷から藤村へ

藤村詩集・透谷から藤村へ

透谷から藤村へ・「藤村詩集」を中心に

〔再〕解釈と鑑賞別冊現代のエスプリ島崎藤村

（至文堂 昭41・5）

〔国〕平和のための教育

（出）清水幾太郎・新村猛・中井正一・吉野源三

郎 等

明治文学と平和への意思・平和文学論の

ための覚え書

明治文学と平和への意思・「非戦文学」覚え書

文学 M

現代人

自由公論社

S₁ S₂

自由公論社

K₁ K₂

日読書新聞

S₁ S₂

S₂ M

季刊・日本文学

一集・日本評論社

T₂ T₁ K₂

世界

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

9 現代小説

11 編集後記

12 近代日本の文学と歴史・自然主義について
(出) 窪川鶴次郎・瀬沼茂樹・遠山茂樹・井上清等

島崎藤村伝
島崎藤村評伝

昭和25年(一九五〇)

7 中村光夫著「風俗小説論」(19日)
嵐の中でこそ・日本文学協会第五回総会について

8 嵐の中でこそ・日本文学協会第五回総会について

9 自然主義
日本自然主義
勝本清一郎編「透谷全集」(23日)
(出) 中島健蔵・佐々木基一・丸山真男・西尾実等

12 自然主義

昭和26年(一九五二)

2 文学入門書の問題

4 「近代日本の文学」福村出版刊

6 「国文学における抵抗」(出) 新村猛・杉捷夫・杉浦明平・中野重治・竹内好等

11 歌舞伎をみて
歌舞伎について1・歌舞伎をみて

12 日本文学研究の現状と問題
その態度と方法の問題を中心に(討論)

日本文学研究の方法と課題
写実主義成立前後

日本リアリズムの成立・逍遙・花園・葉亭・鷗外

「文学便覧」本編「搞書房」

季刊・日本文学二集・日本評論社

「信州人物記作家伝」信濃毎日新聞社

日読書新聞 K₁ K₂

文学

文学

本読書新聞 K₁ K₂

「日本文学講座」河出書房

文学

文学

「文学読本」人と作品「搞書房」

文学

文学

「近代日本文学講座3」河出書房

K₁ K₂

解説(河出市民文庫「絵本」)

田宮虎彦の文学「絵本」解説
田宮虎彦「絵本」を中心に

「この年」世界歴史事典(平凡社 昭26/30、新版 昭31)に執筆協力。「徳富蘆花」の項等

昭和27年(一九五二)

4 鷗外自筆未発表資料解説・原田春鈴「鷗外明治文学の展望」森博士と語る

徳田秋声

5 ふたたび歌舞伎について・桑原武夫氏の批判にこたえる
歌舞伎について2・桑原武夫氏の批判にこたえる

6 野間宏 「真空地帯」

8 「野間宏全集」別巻「野間宏研究」(筑摩 昭51)

「野間宏全集」別巻「野間宏研究」(筑摩 昭51)

9 学生康相憲君の死について
近代日本文化の特質・近代芸術の成立をめぐって

10 近代日本文化の特質・近代芸術の成立をめぐって
近代芸術の成立をめぐって・近代日本文化の特質

11 日本文学の中心課題は何か
(出) 安部公房・西郷信綱・新島繁・梅崎春生

大正・昭和文学の展望

11 ひとつの問題・日本のナショナリズムと文学

12 編集後記
唐詩の魅力・「新唐詩選」はなぜ売れるか(15日)
「真空地帯」をめぐって(出) 野間宏・荒正人
竹内好・安部公房・佐々木基一等

河出書房

EII K₁

文学
「現代文学総説1」学燈社

文学

近代文学
K₁ K₂

文学

本読書新聞 K₁ K₂

京華

「日本歴史講座5」河出書房

人民文学
K₁ K₂

「現代文学総説2」学燈社

「近代日本文学講座」月報・河出書房

文学

「図書新聞」文学評論・理論社

12 近代日本文学への眼・国民文学論ノート／＼8日
一九五二年・国民と文学

昭和28年（一九五三）

1 ▲「真空地帯」〔新演公演劇評〕／＼19日
2 近代日本文学における外国文学の影響
／＼28日

4 〔近代日本文学講座2〕（河出書房）への書評
〔国民文学をどう見るか
（出）荒正人・石母田正・竹内好・本多秋五 等
シンポジウム・近松の遺産
〔日本文学の伝統と創造・日本文学協会一九五
二年度大会報告〕（岩波）初出。猪野・議長。
報告者は森山重雄・爪生忠夫 等

5 田宮虎彦の文学「鷲」書評／＼20日
田宮虎彦「鷲」

9 後期小説・漱石・鷗外と明治四十年代を中心に
近代小説の展開・漱石・鷗外・スバル派・白樺派
文学の解放のために・の刊行に先だつて
編集後記
「全集合戦」について

12 桑原武夫著「文化への発言」
▲鷗外の読まれ方ということについて。
中野重治氏にこたえる

昭和29年（一九五四）

1 政治・社会小説の流れ2 内田魯庵・くれの
歌舞伎について3・ふたたび桑原氏に答える

日読書新聞 K₁ K₂
文学

社会タイムス EII
図書新聞

厚文社
「国民文学論」

岩波書店

人民文学 K₁ K₂
本読書新聞 EII K₁ K₂
日読書新聞

〔日本文学研究入門〕
ミネルツ書房
K₁ K₂

図書
文学
文学
文学

文学 K₁ EII
「鷗外全集」 K₂
月報31・岩波 K₂

K₁ K₂
K₁ K₂
K₁ K₂

あとがき

「近代日本文学史研究」 未来社刊
日本の近代化と文学

3 竹内好 「国民文学論」／＼6日
足柄定之著「鉄路のひびき」／＼22日
編集後記

5 「雪女」〔岩会公演劇評〕
「明治ばやり」ということ／＼17日
〔近代日本文学辞典〕に次項執筆
黒島伝治・小林多喜二・徳永直・葉山嘉樹

7 幸田露伴と今日の文学／＼17朝
解説〔瀬沼茂樹著「近代日本文学のなりたち」
解説〔岩波文庫「社会百面相」下〕
「社会百面相」について

10 〔「日本文学史辞典」に次項執筆、編集委員を務む〕
夏目漱石・徳田秋声・新現実主義・国民文学論
共同討議 国民文学と国民教育
（出）永積安明・西尾実・益田勝実 等

11 日本文学鑑賞のために・藤村と漱石を中心に
漱石の「それから」
「それから」の思想と方法
〔初出文中「わが母の歌」の章を削除してGMに
収録。〕〔「明治文学全集55（筑摩）
収録。〕

12 〔国民文学について（出）竹内好・荒正人・平野
謙・本多秋五・佐々木基一・小田切秀雄 等
〔「荒正人編」討論・日本プロレタリア文学運動
史〕（三一書房 昭30）

K₁ K₂
「岩波講座文
学4」岩波
G G

図書新聞
日読書新聞
文学 EII

東京堂
日読書新聞

日本文学
朝日新聞
河出文庫
岩波書店 G

日本評論新社
日本文学 M

「岩波講座文学
の創造と鑑賞1」
M G

近代文学

12 あとがき

「島崎藤村」 要書房刊

青木茂作 簡井敬介脚色 「三太物語」

編集後記

「生活綴方」断想

昭和30年（一九五五）

1 芥川龍之介・二つの作家論をめぐって

芥川龍之介と現代・二冊の本をめぐって

「現代文学論大系」（河出刊）〈7朝〉

「文学雑誌」をめぐって

「文学雑誌」をめぐって
（出）青野季吉・勝木清一郎・伊藤整・山田清三郎 等

3 国日本文学研究のあゆみ

（出）永積安明・西郷信綱・高木市之助 等

生田長江〈12日〉

生田長江の生涯と思想

「再録」初出文を神戸大学「国文論叢」（昭31・11）に改訂収録。題名「生田長江・その生涯と思想」との素描

家永三郎「教奇なる思想家の生涯」・田岡嶺雲の人と思想〈21日〉

▲感想（木下順一）

生活と文学

「共同研究。参加者は、伊藤整・桑原武夫・国分一太郎・西郷信綱・竹内好・中野好夫・野間宏

「くれの廿八日」内田不知庵

「国民の文学・近代編」（永積安明と共編）

解説「岩波文庫」「兵卒の銃殺」

「兵卒の銃殺」について

「兵卒の銃殺」について

T₁

文学

文学

文学

EII

図書

図書

東京新聞

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

M

6 日本文学研究の問題点・十年の歩みの編集後記

「土」のふるさと「保存・年祭によせて」（14朝）

「平常型」の療養態度

「播州平野」をたずねて

戦後十年の近代日本文学論・その一面について

「戦後」の近代日本文学論・その一面について

伊藤整著「日本文壇史」3〈29日〉

伊藤整「日本文壇史」3・6

杉浦明平のルポルタージュ文学・「台風十三生活記録と文学

「源氏物語」上「日本文学全集3」河出刊〈14朝〉

徳田秋声論

ざれうた一編をめぐって

日本文学研究の課題

中野重治著「むらぎも」〈3朝〉

編集後記

討論 国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって

「国民文学の課題・日本文学協会一九五四年度大会報告」（岩波）所載。猪野・議長。報告は平林

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

「国民文学の問題・「玄海灘」をめぐって」

昭和31年（一九五六）

1 夏目漱石〈1日〉

解説「岩波文庫」「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

「新生」

2 吉田精一「自然主義の研究」上巻〈27日〉

3 「新生」について

日本文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

新説書 岩波書店

4 山極圭司 「木下尚江」△21日▽
はしがき

「近代文学の指標」御茶の水書房刊
〔歴史と文学・秩父困民党〕「風浪」を中心に
(出) 西野辰吉・遠山茂樹・木下順二・石田雄等

藤村作 ある国文学者の生涯・八恩記について
△25日▽

7 長塚節四十周年記念祭のために
日本の児童文学と近代文学・菅忠道著「日本の児
寺田透「同時代の文学者」△11夕▽

8 「安井夫人」△5日▽
平野謙・小田切「現代日本文学論争史」(上)△25日▽
秀雄・山本健吉「古典と現代文学」(二)
古典と現代文学

9 第一、二次「新思潮」について
▲「春」「生い立ちの記」「桜の実の熟する時」
解説〔新潮文庫・田宮虎彦「霧の中」
「霧の中」など・自己抑制の文学
〔霧の中〕など・自己抑制の文学
〔霧の中〕など・自己抑制の文学
〔霧の中〕など・自己抑制の文学

10 徳田秋声への照明△1日と8日▽
解説〔田宮虎彦作品集1〕

〔講座日本近代文学史1〕に次項執筆〕
〔第1章 近代文学成立への過渡期〕〔の中の〕
3 維新後の生活的・精神的状況
4 ジャーナリズムの形成
5 西欧文学の紹介、移入・翻訳文学の盛行
〔第5章 浪漫主義の成立〕〔の中の〕
4 日本近代文学の目的と存在理由
5 「文学界」の運動と諸個性・その影響
解説〔田宮虎彦作品集2〕

図書新聞 S₂ EI

文学

本読書新聞 EI

日本文学
日本児童文学 G
東京新聞 G
婦人民主新聞
図書新聞
〔体系文学講座
7〕青木書店

文学 M G
〔島崎藤村全集〕
月報6・筑摩社
新潮社

本読書新聞 G
光文社
大月書店

光文社

11 「木下順二評論集」について△12日▽
解説〔田宮虎彦作品集3〕

12 野上弥生子著「迷路」△25朝▽
解説〔田宮虎彦作品集4〕
解説〔田宮虎彦作品集5〕

昭和32年(一九五七)

1 解説〔田宮虎彦作品集6〕
田宮虎彦とはじめて逢った頃のこと
田宮虎彦との出逢い

2 野上弥生子 「迷路」
編集後記

3 丸山静 「現代文学研究」△27夕▽
川副国基 「日本自然主義の文学」△30日▽
4 片岡良一氏を悼む△1日▽
文学のひろば

6 日本文学研究の現状・国文学の世界
井上孝 「筑紫飄風記」△14夕▽

8 高見順 「対談現代文壇史」△26日▽
大森のおもいでばなし
回想の中の大森界限

10 〔圖第十一回大会をめぐって〕
(出) 荒木繁・伊藤博之・岡部政裕・阪下圭八等
内田魯庵論

11 稲垣達郎 「近代日本文学の風貌」
霜田正次著 「沖繩島」△3朝▽
〔圖近代日本文学史1 幕末から明治へ〕
(出) 柳田泉・勝本清一郎・大久保利謙

本読書新聞 G

光文社
朝日新聞
光文社
光文社

光文社
〔田宮虎彦作品集
6〕月報・光文社

日本文学
日本児童文学
東京新聞
図書新聞
本読書新聞
EI EI EI
EI EI EI

文学
〔体系文学講座
4〕青木書店
東京新聞
本読書新聞
日協京浜支部
〔南風26〕日
文協

日本文学
〔現代日本文学
全集53〕筑摩
日本児童文学
毎日新聞
文学
Z₁

Z₁

昭和33年(一九五八)

2 園近代日本文学史2 近代文学の成立

(出)柳田泉・勝本清一郎・中村光夫

自然主義文学の展開

3 追悼 新島繁氏

4 ▲長谷川泉著「近代日本文学評論史」△28日▽

5 ▲長谷川泉著「近代日本文学評論史」△10日▽

[長谷川泉への書評は共同配稿かと思われる。]

6 園文学史の問題 (出)永積安明・西郷信綱等

自然主義の文学Ⅱ・白鳥と泡鳴を中心に

初期の正宗白鳥〔初出稿全三章のうち二章を再録〕

白鳥と泡鳴

「岩波小辞典 日本文学・近代」刊〔執筆協力〕

小田切秀雄 「現代における自我」△18夕▽

7 「日本文学史」について

園近代日本文学史3 露伴を中心に

(出)柳田泉・勝本清一郎・伊藤整

田宮虎彦論

9 日本文学協会第十三回総会一般報告(要約)

藤村と花袋〔初出は「近代文学鑑賞講座6」角川〕

10 園近代日本文学史4 鷗外を中心に

(出)柳田泉・勝本清一郎・加藤周一

11 園お茶とセンチメンタリズム・ふかみゆく秋に

(出)松田道雄・吉田光邦 おくる座談会

青野季吉著「文学五十年」△3朝▽

あとがき

「日本文学の近代と現代」未来社刊

12 解釈学者の責任について

文学 Z₁

国文学

日本文学

発表紙不明

信濃毎日新聞

日本文学

若波講座日

本文学史11

M G

東京新聞

図書 EII

文学 Z₁

「現代日本文学

全集83」筑摩

日本文学 G

G T₂ M

文学 Z₁

淡交・淡交新社

毎日新聞

G

新島さんと生田長江

新島繁と生田長江・追悼の言葉にかえて

中村光夫 「二葉亭四迷伝」△29朝▽

昭和34年(一九五九)

1 自然主義作家の動向

大正期における自然主義作家

園近代日本文学史5 透谷を中心に

(出)柳田泉・勝本清一郎・小田切秀雄

3 お唱歌を愛唱する大先輩△1日▽

片岡先生における西鶴

片岡良一における西鶴

5 園日本文学における散文の問題

(出)野間宏・永積安明・針生一郎等

6 園近代日本文学史6 「文学界」から「明星」へ

(猪野欠席)(出)柳田泉・勝本清一郎・和田芳恵

7 一九五八年の国文学界 総会における討論

竹内好著「国民文学論」△6日▽

文学のひろば

「近代日本思想史講座1」に発表された左記二

編は、「文学史的概観」の総題のもとにMに改題収

録された

「第1編5章 浪漫主義から自然主義へ」

「第2編2章 明治末年の思想的状況」

文学史的概観

近代思想の内面化に沿って、浪漫主義から自然主義へ

明治の精神とその終焉・田岡樞雲と森鷗外を中心

8 日本文学協会第十四回総会一般報告(要約)

神戸大学「近代」

新島繁氏追悼号

東京新聞

EI EI

解釈と鑑賞

文学 Z₁ K₂

アサヒグラフ

法政大学「日

本文学誌要」

EI

日本文学

Z₁

文学

日本文学

K₂

図書新聞

文学

筑摩書房

M

日本文学

M

—119—

8	<p>〔近代日本文学史7 明治の社会文学 (出)柳田泉・勝本清一郎・瀬沼茂樹 漱石・その序章</p>	文学	Z ₁
11	<p>高見順著「昭和文学盛衰史」(一、二)〈3朝〉 芸術における近代化と伝統</p>	<p>〔岩波講座日本文学史15〕 毎日新聞 〔近代日本文学史7〕筑摩 K₂</p>	M
12	<p>〔近代日本文学史8 国木田独歩と島崎藤村 (出)柳田泉・勝本清一郎・平野謙</p>	文学	Z ₁
昭和35年(一九六〇)	<p>1 〔近代日本文学史9 国木田独歩と島崎藤村(結) (出)柳田泉・勝本清一郎・平野謙</p>	文学	Z ₁
3	<p>▲木下順二「東の国にて」 野間宏 「さいころの空」について 野間宏 「さいころの空」</p>	<p>神戸労演パ ンフレット 新日本文学</p>	EII
4	<p>〔日本文学史〕〔西尾実・秋山虔と共編著。初版中、 近代の項を執筆。その後の版は猪野文でない〕</p>	秀英出版	
4	<p>〔近代日本文学史10 田山花袋と徳田秋声 (出)柳田泉・勝本清一郎・吉田精一</p>	文学	Z ₁
6	<p>岩野泡鳴△27夕▽ 自然主義作家としての真山青果</p>	東京新聞	
7	<p>〔再〕「明治文学全集70」(筑摩)及び「真山青果全集別巻1」(講談社 昭53)</p>	文学	M
7	<p>〔近代日本文学史11 夏目漱石 (出)柳田泉・勝本清一郎・荒正人</p>	文学	Z ₁
7	<p>〔近代日本文学史12 明治の大家大学 (出)柳田泉・勝本清一郎・木村敏</p>	文学	Z ₁
8	<p>〔古典教育について・高等学校学習指導要領 改訂草案を中心に</p>	文学	Z ₁
9	<p>(出)益田勝美・秋山虔・大野晋 等 日本文学の高音部と低音部〔講演〕 伊藤整著「日本文壇史」6〔19日〕 伊藤整 「日本文壇史」3・6</p>	理想・理想社 週刊読書人	EI
10	<p>〔文学と教育(出)桑原武夫・竹内好・加藤周一等 文学と教育の問題をめぐって〔講演〕 文学と教育との問題私見</p>	文学	EI
12	<p>〔石川啄木論(出)沢野晰子・松下寿子・下橋邦彦 啄木入門・自然主義文学との関係をめぐって 漱石忌に思う△9夕▽</p>	<p>神戸大学総合 雑誌「展望」 神戸新聞</p>	EII
昭和36年(一九六一)	<p>2 解説〔新編石川啄木選集4・啄木評論集〕 啄木の評論</p>	春秋社	M
3	<p>〔再〕「石川啄木必携」(学燈社昭42)「啄木全集8」 〔筑摩昭43)「文芸読本・石川啄木」(河出昭51)</p>	<p>解釈と鑑賞 神戸大学総合 雑誌「展望」 日本文学</p>	EII
3	<p>堀辰雄 「ルウベンスの偽画」</p>	文学	Z ₁
4	<p>春 園学生生活と文学 (出)中島一憲・浅田修一等 「日本文学史」への妄評に答える 〔思想と文体 その三 (出)針生一郎・祖父江昭二・平岡敏夫 等</p>	<p>図書 日本文学</p>	M
5	<p>啄木断片・その五十回忌を迎えて (出)広末保・伊豆利彦・尾崎秀樹・杉山康彦 等</p>	<p>毎日新聞</p>	Z ₁
6	<p>〔近代日本文学をめぐる思想状況 (出)広末保・伊豆利彦・尾崎秀樹・杉山康彦 等 野間宏「干潮のなかで」△4夕▽ 司会者のがき 「座談会明治文学史」(柳田泉・勝本清一郎と共編 著「毎日出版文化賞」受賞)</p>	<p>岩波書店</p>	Z ₁ EII

6 農村の暮らし、都会の哀しみ・啄木の小説

啄木の小説

7 幸徳秋水・田岡嶺雲 「人と作品・現代文学講座

3」の執筆項目

「木下民話劇」の方向へ29日

著作家の手紙へ29日 「著作家の手紙」欄所載

8 寺田透 「理智と情念」へ16夕

9 近代日本文学史13 明治から大正へ

(出)柳田泉・勝本清一郎・上原専禄

島崎藤村

藤村研究略史

11 岡本太郎著「忘れられた日本」へ3朝

近代日本文学史14 志賀直哉

(出)勝本清一郎・谷川徹三・本多秋五

12 佐藤春夫の一面 大正文学の問題点に触れつつ、戦

佐藤春夫の一面とその「国士」から「隠者」への道

大衆文化と芸術へ15日

昭和初年代のこと・近藤忠義氏の思い出 「法政大

学」日本文学誌要」近藤忠義教授還暦記念号

(この年「国民百科事典」(平凡社 昭36~37)に執筆

協力)

昭和37年(一九六二)

1 近代日本文学史15 有島武郎

(出)勝本清一郎・吹田順助・本多秋五

飛鳥井雅道 「日本の近代文学」へ22日

2 解説 「秋声全集5」

秋声「あらくれ」と「奔流」

「新編石川啄木選集・啄木入門」春秋社

明治書院

図書新聞

東京新聞

文学

近代文学研究必携」学燈社

毎日新聞

文学

文学

神戸大学新聞

文学

文学

文学

週読書人

雪華社

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

3 国木田独歩入門

独歩評伝

明治文学と大正文学私観

断想・明治文学と大正文学

5 瀬沼茂樹 「夏目漱石」へ2夕

近代日本文学史16 武者小路実篤ほか

(出)勝本清一郎・亀井勝一郎・本多秋五

6 天野茂 「松岡荒村」へ2朝

記念の古雑誌「日本文学全集65・田宮虎彦集月報」

読者の歴史・記念の古雑誌をめぐる

7 近代日本文学史17 永井荷風について

(出)勝本清一郎・桑原武夫・成瀬正勝

夏 「オットーと呼ばれる日本人」

(出)白政三左子・水上勲・赤枝茂・河田光夫

8 「オットーと呼ばれる日本人」 「民芸公演劇評」

小島輝正・わが友へ1日

小島輝正

盛夏抄・旅のなかの戦中と戦後

近代日本文学史18 谷崎潤一郎について

(出)勝本清一郎・伊藤整・寺田透

10 小野十三郎「詩論十統詩論十想像力」をめぐる

へ16夕

11 花田清輝 「鳥獣戯話」へ3朝

近代日本文学史19 「奇蹟」の人びと

(出)柳田泉・勝本清一郎・広津和郎

漱石入門へ18日

「日本の思想家2」(朝日新聞社 昭38)

「日本現代文学全集18」講談社

「現代日本文学講座・小説4」月報三省堂

東京新聞

文学

文学

神戸新聞

新潮社

文学

文学

神戸大学総合雑誌「展望」

テアトロ

新日本文学通信

古典と現代・古典と現代の会

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

- 「新版日本の思想家(中)」(朝日新聞社 昭50)
- 11 凹型から凸型へ(「木下順二作品集6」月報5)
凹型から凸型へ・木下順二 掌論
独歩における「政治」・吉田松陰と星亨とを
中心にする覚え書
独歩における「政治」・吉田松陰から星亨へ
〔初出は、西尾実他編「日本文学古典新論・近藤忠義教授還暦記念論文集」に所載された〕
- 昭和38年(一九六三)
- 1 作家岩野泡鳴と部落の問題・その「部落の娘」
「部落の娘」と部落の問題 をめぐって
- 2 近代日本文学史20 菊池寛と芥川龍之介
(出)勝本清一郎・小島政二郎・平野謙
森井典男追悼 〔神戸大学・国文学士
研究雑誌「抵抗」〕
森井典男君追悼 〔網〕森井典男遺稿集「ゼロの日に」(昭38・8)
- 3 「夢の超特急」に思う(22朝)▽
- 4 近代日本文学史21 大正期の詩歌
(出)勝本清一郎・中野重治・山本健吉・安東次男
- 6 瀬沼茂樹 「近代日本文学の構造」(9日)▽
明治文学
明治文学研究史略
〔近代日本文学史22 大正期の演劇
(出)勝本清一郎・千田是也・戸板康二・木下順二
読書のすすめ(「若波文庫」破戒)に初出〕
「破戒」の読者に
〔初出掲載日付未詳。仮にT₂あとがきに従った
が、同文庫編集部によれば38年3月9刷初出〕

未来社	河出書房	部落・部落問題 研究所機関誌	文学	文学	朝日新聞	朝日新聞	文学	文学	文学	文学
EII	M	M	Z ₂ M	Z ₂ EII	EII	EII	Z ₂ EII	Z ₂ M	Z ₂ M	EII

- 7 「解釈と鑑賞・近代文学研究書目ハンドブック」
に次の四項執筆
山田清三郎「プロレタリア文学史」・本間久雄「明
治文学史」(上下)統上(中)・長谷川泉「近代日本文学
思潮史」・風巻景次郎「日本文学史の周辺」
- ▲「高瀬舟」における鷗外の人間認識
都市美について(7夕)▽
球宴(9朝)▽
- 9 あとがき
「島崎藤村」 有信堂刊
「年月のあしおと」について(4夕)▽
〔近代日本文学史23 「近代思想」から
「文芸戦線」まで
(出)勝本清一郎・中野重治・平野謙・稲垣達郎
▲鈴木敏子「らい学級の記録」序〔鈴木敏子「らい
学級の記録」〕
▲「貪天地 饑寒窟探検記」など・「下流細民」と文学
〔共同通信社配稿・「西日本新聞」その他に連載〕
- 11 広津和郎著 「年月のあしおと」(2朝)▽
〔近代日本文学史24 春夫・万太郎・
犀星・浩二など
(出)勝本清一郎・高見順・寺田透
木下順二「沖繩」・ぶどうの会大阪公演
鑑賞のために
木下順二
- 12 「沖繩」・「暗い火花」解説鼎談 (出)堀田善衛・
木下順二
- 昭和39年(一九六四)
- 1 ▲「座談会大正文学史」を終って(31日)▽
2 大正文化と現代・大仏次郎・赤穂浪士(9朝)▽
〔近代日本文学史25 大正期の思想と文学
(出)柳田泉・勝本清一郎・瀬沼茂樹

至文堂	朝日新聞	朝日新聞	東京新聞	文学	文学	文学	文学	文学	文学	文学
T ₂	EII	EII	Z ₂ M	Z ₂ M	Z ₂ M	Z ₂ M	Z ₂ M	Z ₂ M	Z ₂ M	Z ₂ M

2 ▲「経国美談」をめぐる

「教科書に掲載。K₁K₂「経国美談」の一部抜萃」
「現代国語」をめぐるの回想・「文学としての
「文学的内容」とは何か・「現代国語」を
めぐっての感想

3 函批評と研究

(出)小島輝正・土橋寛・飛鳥井雅道等

4 掌論大正時代の広津和郎氏

広津和郎論骨子

5 現存作家をどう扱うか

現存作家をどう扱うかと問われて

重たい石が日本のまん中に…

重たい石が日本のまん中に…野間宏の横顔

6 北杜夫「榆家の人びと」△17日▽

唐木順三・瀬沼茂樹・平野謙 △人と作品現代文

学講座10」の執筆項目」

荷風断想

7 夜明け前△8夕▽〔民芸公演劇評〕

9 ▲「冬の時代」素描

11 北杜夫著「榆家の人びと」△2朝▽

波川驍 「島崎藤村」△15朝▽

12 大石修平氏の「感情論」について

自著案内「島崎藤村」

あとがき

「増補近代日本文学史研究」未来社刊

「現代国語」
大日本図書 M

「国語展望」
尙学図書

日本文学

「日本現代文学全集」
58「月報・講談社」

解釈と鑑賞

「現代の文学・野間
宏集」月報・講談社

朝日ジャーナル
明治書院

「荷風全集2」
月報・岩波

神戸新聞

「民芸の仲間76」
毎日新聞

読売新聞

日本文学

島崎藤村研究誌
「風雪」第2集

昭和40年(一九六五)

1 チェホフの全作品を愛読△13朝▽〔青春時代の愛読
書を問われて

2 「紀ノ川」の抵抗に感じる「抵抗」△28朝△

3 若き日の丸山真男・その片影「現代国語3学習
指導の研究」に所載、初出題は「若き日の彼の
片影」。教材、丸山真男「である」ことと「す
る」ことに附された。

4 小田切秀雄「日本近代文学の思想と状況」△5日▽
司会者のあとがき

「座談会大正文学史」〔柳田泉・勝本清一郎
と共編著

5 林房雄 「文明開化」△16日▽

「生」を支えるもの

6 駒尺喜美著「芥川龍之介論」について

駒尺喜美 「芥川龍之介論」
対談 明治の文学・人間・社会〔稲垣達郎と

7 岩野泡鳴入門

泡鳴評伝

8 ▲木下順二「日本が日本であるためには」△22日▽

9 思い出

信時潔さんの思い出

11 梅崎春生 「幻化」△3朝▽

〔「現代日本文学大事典」に次項執筆〕

荒正人・家永三郎・石母田正・唐木順三・桑原武
夫・幸徳秋水・島崎藤村・瀬沼茂樹・田岡嶺雲・
田宮虎彦・野間宏・長谷川泉・平野謙

12 十二月のことば△1夕△

神戸新聞

朝日新聞

筑摩書房

刊読書人

岩波書店

朝日ジャーナル

「日本近代文
学」第2集

法政大学「日本
文学誌要12」

国語通信・筑摩
全集29」講談社

読売新聞

図書

毎日新聞

明治書院

朝日新聞

昭和41年(一九六六)

2 文学史研究の動向(近代)

緑雨の「悪魔」

3 「近代文学選」〔西尾実と共編〕秀英出版刊

4 「女性に関する十二章」伊藤整氏の生活と意見

「火の鳥」・「大衆社会時代」にそって10日

5 〔再録〕「ベストセラー物語」(朝日新聞社 昭42)

〔再録〕「現代国語」の志向するもの

(出)西尾実・平岡敏夫・益田勝実・峯村文人

6 もしも私が学生なら…127日

9 菊池重三郎 「馬籠・藤村先生のふるさと」

菊池重三郎 「馬籠・藤村のふるさと」

10 「夜明け前」について・文学史的な文脈の中で

〔再録〕同普及版月報。また「夜明け前」と改題。一部改稿して「島崎藤村必携」(学燈社 昭42)収。

11 文学史・近代

〔「日本における歴史学」の発達と現状2〕

序にかえて・明治作家の原点

あとがき

「明治の作家」岩波書店刊

昭和42年(一九六七)

1 三好行雄 「島崎藤村論」その方法をめぐって

解説 彼岸過迄・行人・心

戦後派の命脈未だ衰えず

〔「ある軌跡・未来」社15年の記録〕

戦後派の命脈

日本文学

〔明治文学全集 28〕月報・筑摩 M

朝日ジャーナル

EII

国語通信・筑摩

EII

神戸大学新聞

EI

解釈と鑑賞

EI

〔藤村全集12〕

月報・筑摩 M

東大出版会

M

M

M

M

M

M

EI

EI

EI

EII

EII

EII

「現代文学選」〔西尾実と共編〕秀英出版刊

4 現代における漱石

司会者の悼辞・故勝本清一郎氏のこと

勝本清一郎氏のこと

娘の結婚(6夕)

伊藤整「海の見える町」(作品鑑賞・作者研究)

〔右記初出文の中「作品鑑賞」の部分と青春と

伊藤整「海の見える町」を中心に、その詩と青春と

伊藤整の生涯と文学素描

〔右記初出文の中「作者研究」の部分と改題収録〕

田宮虎彦「絵本」(作品鑑賞・作者研究)

〔「現代国語」をめぐる諸問題

(出)平岡敏夫・分銅惇作・益田勝実

10 島崎藤村「近代日本の文豪2」

▲徳田秋聲の輪廓〔「日本文学全集・徳田秋聲集」

11 若い人にすすめたい本(6夕)

〔読書週刊アンケートへの回答〕

12 啄木の小説

浪漫主義の開花・「若菜集」について

「若菜集」を中心に

昭和43年(一九六八)

1 「新潮日本文学小辞典」に次項執筆

生田長江・稻垣達郎・勝本清一郎・杉浦明平・田宮虎彦

2 ▲私の明治(9日)

〔共同通信社配稿。「愛媛新聞」(6日)その他〕

「漱石全集16」

月報・岩波

図書

EI

毎日新聞

EII

〔現代国語1改訂版学習指導の研究〕筑摩

EII

同・筑摩

EII

国語通信・筑摩

EII

読売新聞社

EI

河出書房

EI

毎日新聞

EI

〔石川啄木必携〕学燈社

EI

「日本の近代詩」

読光新聞社

EI

新潮社

EI

河北新報

EI

2 「明治百年」と文学(16夕)

昭和文学のルネッサンス

昭和文学史の一章・「文芸復興」前後

啄木の時事詩的短歌について

〔近代の文章・文章の教育

(出)平岡敏夫・益田勝実

5 〔事実と虚構・新しい文学教育の可能性

(出)相馬庸郎・益田勝実

6 上西教授を悼む〔神戸大学「近代」上西教授追悼

〔文学理論の研究〕をめぐって

(出)尾崎秀樹・益田勝実・三好行雄・平岡敏夫
杉山康彦 等

10 学校校風 神戸大学・学生は温和で着実(1日)

文学のひろば

〔斬られの仙太〕〔民芸公演劇評〕

開高健 「輝ける闇」(31朝)

11 広津和郎氏の輪廓

12 一大学教師の腹立ち・「ことしいちばん腹が立ったこと」というアンケートに答えて(26夕)

昭和44年(一九六九)

1 文学の本質

はしがき

〔文学概論〕〔猪野編〕有信堂刊

2 「西鶴置土産」その他

朝日新聞

「日本文学の歴史12」角川

「啄木全集8」月報7・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

4 私の出会い・戦争の終結で日本文学を研究(10夕)

解説〔岩波文庫「夜明け前」

「夜明け前」について

7 柳田泉氏を悼む

8 立原道造「萱草に寄す」

9 「名著複製全集」近代文学館作品解題・昭和期

10 もろさわようこ著「信濃の女」(上下)未来社

昭和45年(一九七〇)

1 文学のひろば

大学紛争と国文学教師

3 「小説神髓」の前後

「小説神髓」前後の遺逸

9 アンケート 私の推すプロレタリア文学

10 露伴・もうひとつの「近代」明治文学史の

松永伍一著 「日本農民詩史」

(上、中1・2、下1・2) (30朝)

昭和46年(一九七一)

1 「第三期」〔子午線〕欄に所載

「第三期」三島由紀夫の事件に触れて

6 「明治文学全集55夏目漱石集」編集・次項解題

文壇に於ける平等主義の代表者〔ウォルト、ホイ

ットマン〕の詩について・人生・俳句・日記断片

書簡集・倫敦消息・自転車日記・文学評論・坊っ

ちゃん・草枕・夢十夜・それから・長谷川君と余

博士問題とマードック先生と余

産業経済新聞

岩波書店

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

文学

7 松田道雄 「私の読んだ本」〈26日〉

9 ▲「神戸の酒」その他

文学のひろば

「中国文学月報」の復刻版を読む

峠三吉全詩集 「にんげんをかえせ」〈28朝〉

昭和47年（一九七二）

第26回大会

シンポジウム・近代日本における思想と文学
〔猪野・司会。報告 十川信介・平岡敏夫 等〕

解説・「三四郎」「それから」

「三四郎」と「それから」 「認識者」の文学・

教育者子規と大江健三郎

「教育家」子規と大江健三郎

3 二・二六前夜の青春

二・二六前夜の青春・編集者の問いにこたえて

〔著者にきく3文学芸術への道（未来社昭47）

野間宏 「文体・顔・その他」〔筆者研究・

野間宏「文体・顔・その他」をめぐって

「黒い雨」について

井伏鱒二 「黒い雨」

5 〔監〕「現代国語」とはなにか

〔出〕鈴木醇爾・平岡敏夫・益田勝美・分銅惇作

一径路・永積さんの片影 〔国文神戸〕永積安

夏目漱石 三四郎 〔精選名著復刻全集近〕

本読書新聞

「酒」

文学

毎日新聞

日本文学

日本文学

日本文学

〔日本近代文学

大系26〕角川

国語通信・筑摩

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

未来・未来社

「三四郎」の意味

漱石とわたし

わたしの稲垣達郎さん〈20日〉

わたしの稲垣達郎さん・古稀を迎えられた同氏に

〔島崎藤村事典〕（伊東一夫編）に次項執筆

家・ドストエフスキー・眼鏡

杉浦明平 「小説渡辺華山」〈28朝〉

昭和48年（一九七三）

5 〔監〕「現代国語」の新たな地平を求めて

〔出〕益田勝美・分銅惇作・平岡敏夫

行動に敬意（日本近代文学館設立十周年に祝辞）

8 「八丈島共和国」への夢・一無名新選組

文学のひろば

国文学（近代）時評の試み

11 〔監〕近代文学における「帰朝者」の意味・荷風

〔新帰朝者日記〕・鶴外「舞姫」を中心に

〔出〕越智治雄・平岡敏夫

昭和49年（一九七四）

3 漱石と現代〔講演・新潟県立見附高校「和光」9号〕

〔政治小説〕論私見 〔日本近代文学大系2〕

高見順「わが胸の底のここには」論〔作品論・

高見順「わが胸の底のここには」論〔作品論・

高見順小論

〔右記初出文中「作者論」の部分を取録〕

「明治の文学」

・有斐閣

わせた・国文

ニエース17

明治書院

毎日新聞

毎日新聞

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

〔日本近代文学館〕

茨城県史研究

文学

文学

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

国語通信・筑摩

- 4 「蕪村の芸術」をめぐっての回想
小林太市郎 「蕪村の芸術」をめぐって
片上伸 「文学評論」・回想 この一冊
- 5 蘆花と現代「講演、昭48・10、於県立長崎南高校。
「国語研究18」長崎県高校教育研究会国語部会」
- 10 蘆花の「自然と人生」を論ず
〔現代作家作品論〕瀬沼茂樹古稀記念集〕
- 11 文学のひろば
「ガリヴァの馬」と漱石
- 12 中野好夫 「蘆花徳富健次郎」〈2日〉
- 昭和50年（一九七五）
- 2 わたしの西尾先生
「新婦朝者日記」論・作者論
永井荷風「新婦朝者日記」から風俗小説へ
〔EIへの再録の際「作者論」は省かれた。〕
- 5 漱石の位相とその本領・「吾輩は猫である」を
中心に〔この二編は講演であり、各々昭49年6月
4日と11日に発表。〕近代文学・作家とその世界
1〕に所載された。〕
- 8 瀬沼茂樹 「作家の素顔」
- 9 田宮虎彦の人と文学
- 10 子規における散文文学革新の仕事
- 11 「草合」〔名著 複製漱石文学館解説〕
- 12 読者の参与〔岩波講座文学1〕

4 〔小林太市郎著作集
4〕月報・淡交社

国文学 EI EIEI

河出新社 EI

文学 EI EI

本読書新聞 EI EI

〔西尾美国語教
育全集3〕月報
3・教育出版
〔現代国語3〕学習
指導の研究・筑摩

朝日新聞社 EI

国文学 EI

〔現代日本の名
作39〕旺文社

12 〔子規全集
12〕講談社 EI

日本近代文学館 EI

岩波書店

昭和51年（一九七六）

- 2 近況 現代文学史で停滞〈9朝〉〔近況欄所載〕
- 3 青果の小説とその馬琴評伝
真山青果の小説とその馬琴評伝
- 4 対談 「全体」をみつめる眼・漱石をめぐって
〔野間宏との対談〕
- 5 日本自然主義とその対立者たち
漱石研究をめぐっての断片〈15日〉
- 7 シンポジウム・人間にとって文学とは何か
（出）目崎徳衛・前野直彬・宮崎健三
- 9 研究者主体の再確認ということ〈1日〉
学界内外における対話討論の場とその条件
- 10 文学研究と自己表現〔岩波講座文学10〕
原子朗 「文体論考」
- 11 わたしの銀座・「時に佇つ」に擬して
わたしの近藤忠義先生「講演、於和光大学昭51・1」
〔再録〕「和光大学人文学部紀要11」（昭51・12）
- ▲回想・茨城とわたし
鷗外・透谷と露伴の浪漫主義〔季刊論叢日本文化
7、飛鳥井雅道「鷗外その青春」季報〕
- 昭和52年（一九七七）
- 5 竹内好氏葬送の夜に
- 6 芥川龍之介全集に寄せて〔岩波「芥川龍之介
全集」内容見本〕

朝日新聞

15 〔真山青果全集
15〕月報・講談社 EI

国語通信・筑摩

〔岩波講座
文学7〕

〔日本近代文
学館31号〕 EI

国文学言語と
文芸・桜楓社

近代文学会
「会報44」 EI

日本文学

岩波書店

国文学

〔銀座百点
銀座百点会

日本文学

岩波書店

文学 EI EII

岩波書店 EI EII

茨城文学

角川書店 EI EII

参考文献 猪野謙二著書評その他

この参考文献表は著作年表作成の過程に曝目したものを取りあげたにすぎない。国民文学論、歌舞伎論等に関連して多数の論がある筈だが、断念した。

田宮虎彦 新人雑評 (「帝大新聞」昭11・6・29) (「未成年」評)

西村孝次 雑誌評・「花」第四号 (「東京朝日新聞」昭22・12・10)

〔文学に於ける思想と肉体・荒正人を中心に〕に言及)

稲垣達郎 近代日本文学についての二つの業績 (「文学」昭26・7)

〔近代日本の文学〕書評]

竹内 好 国民文学の問題点 (「改造」昭27・8) ^{再録} 国民文学論 (東

大出版 昭29) (「戦後文学論争下」(番町書房 昭47)

小倉金之助 ツルゲーネフの葬式 (「図書新聞」昭27・11・22) (「読書

雑誌欄」所載。〔近代日本文化の特質〕に言及)

服部之総 徹視の史学 (「徹視の史学」理論社 昭28) (「明治時代的

人間の類型」に言及)

広末 保 歌舞伎論の課題・歌舞伎論争の論点をめぐって (「日本文学

の伝統と創造・日本文学協会一九五二) 岩波書店昭28・5)

^{再録} 〔元禄文学研究〕(東大出版 昭30)

樋口 寛 〔近代日本文学史研究〕(「信濃毎日新聞」昭29・2・1)

無署名 同 (「大分合同新聞」昭29・2・6)

K 同 (「新読書」昭29・2・6)

無署名 同 (「熊本日日新聞」昭29・2・7)

無署名 同 (「山陽日報新聞」昭29・2・7)

野間 宏 同 (「本読書新聞」昭29・2・8)

^{再録} 〔野間宏全集14〕(筑摩書房 昭45)

荒 正人 文芸学とは何か・学問としての批評 (「大阪新聞」昭29・

2・13) (「近代日本文学史研究」に言及)

杉浦明平 猪野謙二の「近代日本文学史研究」について (「京大

園新聞」昭29・2・15)

^{再録} 補増 現代日本の作家 (未来社 昭39)

無署名 〔近代日本文学史研究〕(「国際新聞」昭29・2・16)

無署名 同 (「朝日新聞」昭29・2・22)

無署名 同 (「産業経済新聞」昭29・2・22)

無署名 同 (「旬刊日販通信」昭29・2月増

井上正蔵 同 (刊号)

同 (「出版ニュース」昭29・2月下

荒 正人 国民文学論の整理期・岩波講座と竹内好の評論集を中心に

(「朝日新聞」昭29・3・1)

平野 謙 〔近代日本文学史研究〕(「図書新聞」昭29・3・20)

吉田精一 同 (「東京新聞」昭29・4・16)

長谷川泉 同 (「文学」昭29・3)

桑原武夫 同 (「日本文学」昭29・4)

小原 元 同 (「近代文学」昭29・6)

田中西二郎 露伴の新しさ(上下) (「東京新聞」昭29・5・29~30)

田中西二郎 神話文学史の盲点・猪野謙二氏に答う (「朝日新聞」昭29・

8・1)

伊藤 整 現代文学の失敗 (文芸時評下) (「朝日新聞」昭29・8・5)

^{再録} 〔猪野・田中西二郎論争に言及]

樋口 寛 〔島崎藤村〕(「信濃毎日新聞」昭30・1・9)

- 丸山 静 「島崎藤村」〔図書新聞〕昭30・2・19)
- 瀬沼茂樹 同 〔本読書新聞〕昭30・3・28)
- 永積 猪野編「国民の文学・近代編」〔毎日新聞〕昭30・6・13)
- 無署名 同 〔本読書新聞〕昭30・8・8)
- 木曾隆一 同 〔本読書新聞〕昭30・8・8)
- 磯員英夫 同 〔文学〕昭30・8)
- 無署名 同 文学の新しい旗手たち・十年の足あと〔本読書新聞〕昭30・8・29)
- 無署名 戦後研究活動の成果を展望・日本文学協会 第十回大会 〔本読書新聞〕昭30・8・29)
- 瀬沼茂樹 近代日本文学の研究三つ〔本読書新聞〕昭31・7・30)
- 〔近代文学の指標〕に言及)
- 川副国基 「近代文学の指標」〔日本文学〕昭31・9)
- 竹盛天雄 川副国基、猪野謙二両氏の「自然主義の文学」について
の感想〔日本文学〕昭33・9)
- 西田 勝 「日本文学の近代と現代」〔図書新聞〕昭33・12・20)
- 稲垣達郎 同 〔本読書新聞〕昭33・12・22)
- 米田利昭 同 〔日本文学〕昭34・3)
- 日野啓三 同 〔新日本文学〕昭34・3)
- 金 達寿 同 〔文学〕昭34・8)
- 佐伯彰一 柳田・勝本・「座談会明治文学史」〔本読書新聞〕昭36・8・7)
- 寿岳文章 同 〔毎日新聞〕昭36・11・3)
- 山田博光 猪野謙二と小田切秀雄〔国文学〕昭36・10)
- 伊藤 整 「島崎藤村」〔朝日ジャーナル〕昭38・10・27)
- 伊豆利彦 「島崎藤村」〔日本文学〕昭39・3)
- 奥村久美子 戦後の日本近代文学研究・猪野謙二氏の場合〔日本文学〕昭40・3)
- 瀬沼茂樹 猪野謙二〔現代日本文学大事典〕明治書院 昭40・11)
- 深江 浩 国民文学論におけるリアリズム概念の行方・猪野謙二氏の漱石研究をめぐって〔日本文学〕昭40・12)
- 榎本隆司 柳田・勝本・「座談会大正文学史」〔日本文学〕昭41・2)
- 猪野編「増補近代日本文学史研究」批判〔日本文学〕昭41・3)
- 関口安義 「島崎藤村」〔解釈と鑑賞〕昭41・9)
- 水谷昭夫 「明治の作家」〔国語と国文学〕昭42・7)
- 紅野敏郎 「かえって」の論理・猪野謙二著「明治の作家」私感(神戸
大学文学会「研究」昭42・11)
- 橋本峰雄 近代文学の研究について・三好行雄氏と猪野謙二氏の近業
をめぐって〔文学・語学〕昭43・3)
- 三好行雄 「明治の作家」〔文学〕昭42・12)
- 相馬庸郎 長谷川泉 「日本文学の遠近Ⅰ、Ⅱ」〔東京新聞〕昭52・10・8)
- 相馬庸郎 「日本文学の遠近Ⅰ、Ⅱ」〔本読書新聞〕昭52・11・7)
- 相馬庸郎 猪野謙二〔日本近代文学大事典Ⅰ〕講談社 昭52・11)
- 平岡敏夫 「日本文学の遠近Ⅰ、Ⅱ」〔文学〕昭53・1)
- 伊豆利彦 同 〔国文学〕昭53・3)
- 西垣 勤 猪野謙二論・その戦後の出発〔日本文学〕昭53・10)
- 紅野敏郎 「偽画」〔未成年〕の意義・昭和十年代文学再検討〔文学〕昭53・12)
- 〔未確認のものに、益田勝実「近代日本の文学」評がある。〕